

乳幼児の健康マネジメント

小さな子どもはちょっとしたことで危険にさらされる。子育てはまさに「命を育むプロジェクト」なのだ!

子どもの健康な毎日を守るため、まさかの事故を防ぐために父親が知っておくべきことは? 新米パパから「信頼パパ」へ、いよいよ最後のミッションだ!

まずは「日々の健康づくり」から!

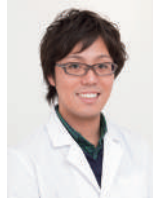
子どもは急に熱を出したり体調を崩したりする。しかしよく観察していると、その前にはいつもと比べて食が細かったとか、いつも以上に甘えてきたなど、“普段と違う”サインを出していることが多いと気づく。歯磨き、手洗いうがい、食事、寝かしつけなど、毎日のお世話をパパの得意分野にして日々の健康観察を行い、ママとしっかり情報共有をすることで、病気のサインにいち早く気づけるようにしましょう!

小児科を受診した際、問診にスムーズに答えることができれば、的確な診断にも役立つのだ。



「予防接種」と「健診」は、 パパのスケジュールにも組み込もう!

種類が多く接種の時期や間隔の管理が必要な予防接種。パズルのピースを埋めるように煩雑で難しいスケジュール管理は、ママだけに任せずパパも積極的に参加したい。病院や福祉保健センターで行う健診も、乳幼児の保健や医療の現場を知る絶好の機会。予めスケジュール帳に書き込んで、できる限り仕事を調整しよう。



講師
中村 守男
なかむら もりお

NPO法人こどもとくすり理事長。パパ薬剤師として小児医療の現場に立つ他、講演・執筆・企画も行う。



乳幼児によくある事故は「誤飲」

ハイハイなど動き始めた乳児や幼児に多いのが、誤って食べ物以外のものを飲んでしまうこと。たばこ、薬、洗剤、おもちゃなど身の回りにあるものが原因になることが多く、窒息や物によっては中毒症状を起こすことも。誤飲のリスクを防ぐために、赤ちゃんの手の届く範囲に置くものには注意しよう。



知っておこう! AEDの使い方

AEDは「自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator)」の略。心肺蘇生を行う際に使用する医療器具。救急隊員や医師が駆けつける前にAEDを使った心肺蘇生法を行えば一命をとりとめる可能性が高くなる。いざという時のために講習会などに参加し使い方をマスターしよう。AEDは学校や図書館、駅など主要施設に設置されているので、置き場所についても要チェックだ。

AEDを用いた救急法などの講習会についてはこちら

横浜市消防局 <http://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/kousyu/>

子どもが病気、事故の時に!夜間・休日医療電話相談

シャープなな いち いち きゅう
救急相談センター **# 7119** (携帯電話、PHS、プッシュ回線)または
045-222-7119 (全ての電話でご利用できます)
音声案内に従って番号を押すと、次のサービスにつながります。

プッシュ1番

救急医療情報センター(医療機関案内)

その時受診可能な、医療機関案内を行います。
(24時間・無休)

聴覚障害者専用ファックス 045-212-3808
FAX受付後に医療機関と調整の上、折り返しいたします。

プッシュ2番

救急電話相談

看護師が、症状に基づく緊急性や、受診の必要性についてアドバイスします。

受付時間 月~金曜日=午後6時~翌午前9時
土曜日=午後1時~翌午前9時
日曜・祝日=午前9時~翌午前9時

神奈川県医師会中毒情報相談室 **045-262-4199** 24時間
年中無休

たばこ、洗剤、化粧品などの化学製品を誤って飲んだり、食べたりした時に、
家庭での適切な対応方法や見守り方をアドバイスします。

携帯に
登録して
おこう!

